

ケソン市公式訪問報告書

平成27年10月4日(日)～7日(水)

千葉市
総務局市長公室国際交流課



1 訪問目的・概要

本訪問は、姉妹都市フィリピン共和国ケソン市が設立75周年を迎え、訪問要請があったことを契機に実施されたものである。ケソン市との交流は、市民団体同士の交流が起源で、その盛り上がりがきっかけとなって姉妹都市提携に至っている。今回は、ケソン市の団体と交流を継続している市内団体の関係者（市民訪問団）とともにケソン市を訪問したが、75周年のお祝い、友好関係確認書の署名等を通じ、同市との友好関係を一層深めていくことが目的の一つである。

また、本訪問の機会を捉え、フィリピンとの経済連携協定（EPA）に基づく介護人材の受入や養成などに関し、「フィリピンにおける介護人材の養成実態と活用に向けての課題を探る」ことをテーマに、関連施設の視察及び意見交換を行うことも本訪問の主目的である。

千葉市長としては平成7年（1995年）5月以来20年ぶりのケソン市訪問となる今回の機会を利用し、観光トップセールスを行うとともに、ケソン市側の要望により、同市の課題である洪水緩和施策に関し、本市の取り組みの紹介も実施する。

2 ケソン市の概要

<人口> 約300万人

<面積> 約161万平方キロメートル

<市長> ハーバート・M・バウティスタ

公用語は、英語とフィリピン語。

フィリピン諸島最大のルソン島中部に位置している。首都マニラの北東に隣接しており、フィリピン共和国の旧首都でもある。ケソン市は、1940年に都市建設が始められ、当時のフィリピン大統領、マニユエル・ケソン氏を讃えて市名が命名された。

千葉市との姉妹都市提携は、1972年（昭和47年）11月9日。



3 訪問行程等 平成27年10月4日(日)から7日(水)まで(4日間)

月日	発着・滞在地	スケジュール	宿泊地
10/4 (日)	千葉 成田空港発 マニラ着 ケソン市	成田空港～ニノイ・アキノ国際空港へ ケソン市内ホテル着	ケソン市
10/5 (月)	ケソン市内	ケソン市役所へ ケソン市朝礼 ・75周年祝辞 ・ケソン市より「ケソン市の鍵」受領 朝食会・意見交換会 ・千葉市紹介・観光PRプレゼンテーション ・雨水対策の取組プレゼンテーション ・友好関係確認書署名・記念品交換 ケソン市内視察 ・ビステック・ビル ・ケソン・メモリアル・サークル/記念塔博物館 ・ケソン・ヘリテージ・ハウス(昼食) ・ケソン市議会 ケソン市主催歓迎レセプション	ケソン市
10/6 (火)	ケソン市 マニラ市 パサイ市 (メトロマニラ) マンダルヨン市 (メトロマニラ) ケソン市	マニラへ ※市民訪問団は一部自由行動 日本語学校視察 日本大使館表敬訪問 介護福祉士候補生養成施設視察 千葉市主催答礼レセプション	ケソン市
10/7 (水)	ケソン市 パサイ市 (メトロマニラ) マニラ発 成田空港着	マニラへ 商業施設視察 ニノイ・アキノ国際空港～成田空港 解散	

4 訪問団

- (1) 公式訪問団 10人 千葉市長、千葉市議会議長 ほか
- (2) 市民訪問団 18人
千葉青年会議所、千葉ネオライオンズクラブ、ボーイスカウト千葉県連盟、千葉YMCA、千葉市老人福祉施設協議会 ほか

5 訪問日程の概略

≪1日目≫ 10月4日(日)

成田空港より空路マニラへ。空港では、ケソン市職員の出迎えを受ける。
ニノイ・アキノ国際空港より滞在先ホテルに直行。
ケソン市側と滞在中の行程について打合せを行った。

≪2日目≫ 10月5日(月)

午前7時半より、ケソン市役所前にて行われた旗掲揚式及び朝礼に参加。
朝礼の場において、多くの市民が見守る中、千葉市長は、ケソン市のダイヤモンドジュビリーを一緒に祝うことができ大変光栄に思っている、ケソン市に来て、人々の活気あふれる姿に都市の躍動感を感じた、20年ぶりとなる訪問を契機に両市の発展に寄与する、より深化した交流を推進していきたい、と祝辞を述べた。



【旗掲揚式に臨む】



【ケソン市長、副市長と朝礼に出席】



【75周年祝賀スピーチ】



【「ケソン市の鍵」受領】



【千葉市の観光プレゼン実施】

会場を3階の朝食会場に移し、ケソン市長から、改めて歓迎の挨拶があった。続いて千葉市側より、市長による観光PRや、ケソン市から要請のあった洪水緩和の取組(雨水対策)について担当職員がプレゼンテーションした。

その後、友好関係確認書の署名、記念品交換などが行われた。



【友好関係確認書署名】



【記念品交換】



【ビステック・ビルの視察】

朝食後、市内視察に出発。バスで市街地を抜け、最初に訪れたのは「ビステック・ビル」。市内の川沿い等に住む低所得者層のために市主導で住宅街が整備されたもので、雨量の多い時期などに危険となる地域に暮らす市民を順次転居させている。なお、「ビステック」とは、パウティスタ市長の俳優時代の愛称である。



【ケソン・メモリアル・モニュメント】

次に訪れたのは、ケソンのシンボルともいべき、メモリアル・モニュメントを中心とした「ケソン・メモリアル・サークル」。建物の地上部分はケソンの名前の由来ともなっている、マニユエル・ケソン元大統領にまつわる博物館。職員の案内に従い館内を視察し、ケソン市及びフィリピンの歴史について理解を深めた。

視察後、マニユエル・ケソンが一時過ごした建物が移築された、ケソン・ヘリテージ・ハウスへ移動し昼食。



【市議会で記念撮影】

午後はケソン市役所まで戻り、市役所に隣接するケソン市議会を訪問し、開催中の議会の様子を視察した。議会側の配慮により、訪問団一人ひとりを紹介いただくセレモニーがあった。また、議会はフィリピン語で行われていたが、我々の理解を助けるため使用言語を英語に変更するなど議会の配慮や、議会を中断して記念撮影も行うなど温かい歓迎を受けた。

夜は市内ホテルにてケソン市による歓迎レセプションが開かれた。伝統的な踊りの披露等で盛り上がったが、終盤には訪問団もステージに上がりケソン市の学生たちと演舞で交流を図った。



【ステージに飛び入り参加】



【市長が歓迎に対し謝意を示す】

≪3日目≫ 10月6日(火)

介護人材受け入れや養成に関する視察及び意見交換等

＜背景・目的＞

① 介護人材の不足

日本では2025年に介護人材が約38万人不足すると言われている。
千葉市では、約4,000人の介護人材の不足が見込まれている。

② 経済連携協定（EPA）に基づく介護福祉士候補生の受入制度

外国人就労が認められていない分野において、2国間の協定に基づき公的枠組みで特例的に行うもので、現在、インドネシア・フィリピン・ベトナムの3カ国から、看護師候補生とともに、毎年受入を行っている。滞在は4年間でこの間に介護福祉士の国家試験に合格すれば滞在期間の更新ができるが、不合格の場合は帰国となる。

③ 訪問の目的

本市においても、少子・高齢化を背景とした介護人材の圧倒的な不足が見込まれる中で、EPAに基づく候補生の受入について制度や現状を認識するとともに、意見交換を通じて活用に向けた課題を洗い出し、今後の環境整備に役立てる。

■日本語学校「日本語センター・ファウンデーション・マニラキャンパス」

マニラ市の日本語学校を訪問。校長や日本人講師等より、日本語学習の現状や課題につき説明を受け、実際に授業の様子も見学。

《学校の概要》

当地の代表的な日本語学校。昨年度はEPAの訪日前日本語研修の一部を受託している。

元駐日大使ホセ・S・ラウレル三世の日本語教育への尽力で創設された。



【施設職員からの説明】



【授業を見学】

【主な意見交換】

- 日本語の受講生は1,000人前後。最近是中国系フィリピン人の影響で中国語、また、K-POP人気で韓国語が急増している。日本語受講の目的は、半数がビジネスで、動機はアニメが一番。年齢層としては10~30代が多く、平均年齢は25歳くらい。
- 日本語学習者数が伸び悩む理由としては、日本語の難しさのほか日本語講師の不足が挙げられる。日本語を習得しても指導者にならず、給料のいい企業に引き抜かれてしまう。現在、指導者には駐在員の奥さんなどをお願いしている。
- 学習者を増やすためには、教師の不足は深刻な問題。日本語を指導できる人材を送るか、語学留学生に対する助成を充実させるなど日本で勉強できる機会を増やしてほしい。

■日本大使館

日本大使館に移動し、石川大使を表敬訪問。大使館職員より、フィリピンのEPA介護福祉士候補生の受け入れに関するブリーフィングを受け、意見交換を行った。

《経済連携協定（EPA）の状況》

- 介護福祉士候補生はインドネシア・フィリピン・ベトナムの3か国から受け入れ（フィリピンは2009年から実施）
- 日本の受入希望数に（累計約2,900人）に対し、受入数が追いついていない（累計約2,100人）

- ・フィリピンからは、これまでに約 900 人が来日し、最近は制度緩和などを背景に希望者が増加している
*2015年 218人 (2010~13年は2ケタ)

【課 題】

- ・人材活用のグローバル化
- ・国からの助成など支援はあるが、受入法人（施設）の負担も大きい
- ・合格者を多く出す施設と、そうでない施設が2極化傾向
 - *受入施設では、国家試験の合格を目標とした研修を行うこととしている
 - *サポート体制の違いが合否に直結 ⇒ 受入法人（施設）の体制整備が重要
(2014年度の合格率 介護福祉士：34.8% (比) *上昇傾向。日本人の合格率は約6割)

【主な意見交換】

- ・日本で就労する際に大きな障壁となるのが言語の問題。特に、漢字のライティングは苦手な人が多く、抵抗が大きい。フィリピン人の日本に対する印象は良く、働きたいという人は多いが、カナダ等英語圏に多くの人材が流れてしまっている。
- ・受入にあたっては、法人（施設）の就労環境の整備のほか、就労以外の生活支援等アフターフォローにまで及ぶため、法人側の時間や経費の面でケアコストが増大しているのが現状。法人側でも体制整備は必要だが、負担軽減につながる行政サイドの効果的支援を期待したい。

■介護人材養成施設「セント・オーガスティン・スクールオブナーシング」

午後は介護人材養成施設、セント・オーガスティン・スクールオブナーシングを視察。担当者から取組状況についてのレクチャーの後、実際の授業の様子を見学した。

《学校の概要》

平成16年設立。日本の国会議員の視察も受け入れ経験あり。

教育プログラムは、年齢別に必要とされるケア・スキル、衛生、栄養学など11のモジュール、計830時間で構成され、約6カ月の介護士教育が行われる。



【授業の視察】



【職員の方々と】

【主な意見交換】

- 受講者の年齢は 17～30 歳が中心で、卒業後は英語を活用できるカナダに行く生徒が多い。日本語は資格取得が難しく、なかなか日本側のニーズに答えられていないのが現状。日本が介護福祉士を必要としているのは承知しているが、言語の壁はなんともしがたい。

夜は、千葉市主催の答礼レセプション。この機会を利用し、来場者に千葉市のやき蛤、落花生パイなどの名産品を味わっていただく機会を設けた。日本大使館から担当参事官に出席いただいたほか、ケソン市の協力によりフィリピン旅行業界の会長等役員の出席も得た。



【来場者が名産品を試食】



【ケソン市側の出席者に御礼の挨拶】



【ベルモンテ副市長の挨拶】

4日目 10月7日（水）

空港に向かう道中、巨大モール「モール・オブ・アジア」を視察。フィリピン最大のスーパーマーケットチェーンがバイエリアに開いた商業施設で、敷地面積は世界屈指とのこと。

そこから空港までは近く、午後の便でマニラから帰国した。